

第 8 号議案

第 2 次府中市スポーツ推進計画について

上記の議案を提出する。

令和 4 年 1 月 2 0 日

提出者 教育長 酒 井 泰

第2次府中市スポーツ推進計画について

第2次府中市スポーツ推進計画について、別紙のとおり決定する。

第2次府中市スポーツ推進計画

令和4年度（2022年度）～令和11年度（2029年度）

令和4年1月

府 中 市

目次

第1章 計画策定に当たって.....	1
1 策定の趣旨.....	2
2 国や都の動向.....	3
3 ウィズコロナ、ポストコロナ時代のスポーツ推進.....	4
4 計画の位置付け.....	5
5 計画の期間.....	5
6 SDGsについて.....	6
第2章 現状と課題.....	7
1 市民の意識.....	8
2 スポーツに関わる組織・団体など.....	12
3 スポーツ施設.....	14
4 関係団体ヒアリング.....	16
5 課題と対応.....	18
第3章 計画の基本的な考え方.....	19
1 スポーツとは.....	20
2 基本理念.....	21
3 基本目標.....	22
4 数値目標.....	24
5 施策を推進する4つの視点.....	25
6 施策体系（イメージ）.....	26

第4章 施策の展開と具体的な取組.....	29
基本目標1.....	30
基本目標2.....	32
基本目標3.....	34
基本目標4.....	38
第5章 計画の推進に当たって.....	43
1 各主体の役割.....	44
2 計画の推進と進行管理.....	46
資料編.....	47
1 府中市スポーツ推進計画検討協議会委員名簿.....	48
2 開催経過.....	49
3 アンケート調査.....	50

第1章

計画策定に当たって

第1章 計画策定に当たって

1 策定の趣旨

スポーツは、自らが「する」のみならず、「みる」「ささえる」「そだてる」など、その関わり方は多様です。平成18年3月に策定した「府中市スポーツ振興推進計画」では、スポーツへの多様な関わり方に注目し、「自立したスポーツ活動」「みるスポーツ」「貢献するスポーツ」「パートナーシップによるスポーツ」の振興と、これらを支える「スポーツ施設の整備」を通じて、「スポーツタウン府中」の実現を目指しました。その後、平成23年8月に「スポーツ基本法」が施行されたことに伴い、それまでの取組に加え、同法が求めるスポーツに関する国や地方公共団体の責務、スポーツ団体の努力などの視点を加えた、「府中市スポーツ推進計画」(平成26年度～平成33年度)を策定しました。

さらに、世界的にもSDGs^{エスディーゼイズ}(持続可能な開発目標:6ページ参照)が掲げられ、スポーツ分野はその鍵として位置付けられていることなど、スポーツの果たす役割の重要性が増しており、個々の市民のスポーツに対する意識も含め、スポーツの社会的役割が多様化しています。

このような流れを踏まえ、本市では、スポーツの社会的役割の増大、市民のスポーツへの意識の高まりに加え、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック(以下「東京2020大会」といいます。)開催に伴うレガシーの活用なども期待されることから、スポーツに関わる新たな市民ニーズに応えるため、また、より具体的に「スポーツタウン府中の発展」を目指すため、令和4年度から令和11年度を計画期間とする「第2次府中市スポーツ推進計画」を策定しました。

この計画では、計画の基本理念である「スポーツタウン府中の発展」に向け、改めて基本施策を「そだち・そだてる」「する」「みる」「ささえる」の4つの視点で捉えることとしました。それぞれの視点が相互に密接な関連を持ちつつ、市民一人一人が、それぞれの立場で自主的、継続的にスポーツ・レクリエーションに関わることができるよう、機会の提供と環境の整備を更に進めることで、「スポーツタウン府中の発展」を目指します。

2 国や都の動向

(1) 国の動向

昭和36年に制定された「スポーツ振興法」は、制定から50年が経ち、文部科学省は、スポーツを行う目的の多様化や地域スポーツの活発化などの状況の変化を受け、平成23年に新たに「スポーツ基本法」を制定しました。

平成24年には、スポーツに関する施策を総合的・計画的に推進するため、10年間を計画期間とした「スポーツ基本計画(第1期)」を、平成29年には、「第2期スポーツ基本計画」を策定しました。

平成27年に文部科学省の外局として設置されたスポーツ庁は、この第2期スポーツ基本計画に基づいて日本のスポーツ政策を推進しており、スポーツを「する」「みる」「ささえる」参画人口を拡大するため、成人の週1日以上スポーツ実施率を65パーセント以上にすることを目標に掲げています。また、スポーツ環境の基盤となる人材と場の充実に向けて、指導者やボランティアの育成・確保、総合型地域スポーツクラブの質的充実、スポーツ施設やオープンスペースの有効活用などのスポーツに親しむ場の確保を推進しています。

平成30年には、「スポーツ実施率向上のための行動計画」を策定し、国民全体に向けたスポーツ実施率向上の取組に加え、ビジネスパーソン、高齢者、障害者などに焦点を当てた取組を推進しています。

平成31年には、「障害のある人のスポーツ活動を支援する～障害者のスポーツ活動推進プラン～」を策定し、障害者の活躍の場、スポーツ参画の拡大を推進しています。

(2) 東京都の動向

東京都では、平成24年に「東京都障害者スポーツ振興計画」を、平成25年に「東京都スポーツ推進計画」を策定し、都民のスポーツ活動を推進してきました。両計画の策定後、東京2020大会の開催決定を契機に、障害者スポーツへの関心が急速に高まった状況を踏まえ、障害者スポーツが社会に溶け込んだ東京を創るという決意を込め、前述した2つの計画を一体化した「東京都スポーツ推進総合計画」を平成30年に策定しました。この計画では、スポーツを通じた「健康長寿の達成」、「共生社会の実現」及び「地域・経済の活性化」を施策の柱として位置付け、スポーツ施策を推進しています。スポーツ実施の促進に当たっては、都民のスポーツへの関心・行動の段階により施策が異なると考え、「関心喚起策」、「実行促進策」及び「継続支援策」の3つの視点による施策を展開しています。

3 ウィズコロナ、ポストコロナ時代のスポーツ推進

東京2020大会の開催が近づくにつれ、大会開催に向け機運の醸成が図られただけでなく、これまで以上にスポーツ全体への関心が高まっていました。しかし、令和元年度末頃から感染が拡大していった新型コロナウイルス感染症は、私たちの日常生活だけではなく、スポーツ活動にも未曾有の影響を及ぼしました。

様々なスポーツイベントなどが縮小・延期・中止を余儀なくされ、また、スポーツ施設の使用制限やソーシャルディスタンスの確保などのいわゆる「三密」の回避策の徹底、事前の体調管理・記録などの対応をせざるを得ない状況となりました。さらに、体力低下や地域コミュニティ力の低下、スポーツ観戦機会の減少なども深刻な課題となりました。

このようなコロナ禍での活動(ウィズコロナ時代)及びコロナ禍終息後(ポストコロナ時代)においては、コロナ禍前の状況と同様にスポーツ活動を行うことは、困難であるときえいわれています。

この状況を踏まえ、スポーツ庁では、コロナ禍において感染予防対策を行った上で、健康二次被害を防ぐため、ターゲット別運動・スポーツの啓発、特にスポーツを通じた高齢者向け健康二次被害予防ガイドラインを公表し、また、東京都では、新型コロナウイルスを乗り越えていくために、暮らしなどでの感染拡大を防止する習慣＝「新しい日常」をスポーツでも実践することを推奨しています。

これらの取組を受け、本市においても「新しい日常」を浸透させるため、府中市スポーツ推進委員会が中心となり、「府中市30秒チャレンジ・やってみスポーツ」と題したオンライン動画を作成し、あえて外出しなくても、全ての世代の方々の運動不足の解消と、家族で楽しむことができるレクリエーション活動を紹介し、推進しました。

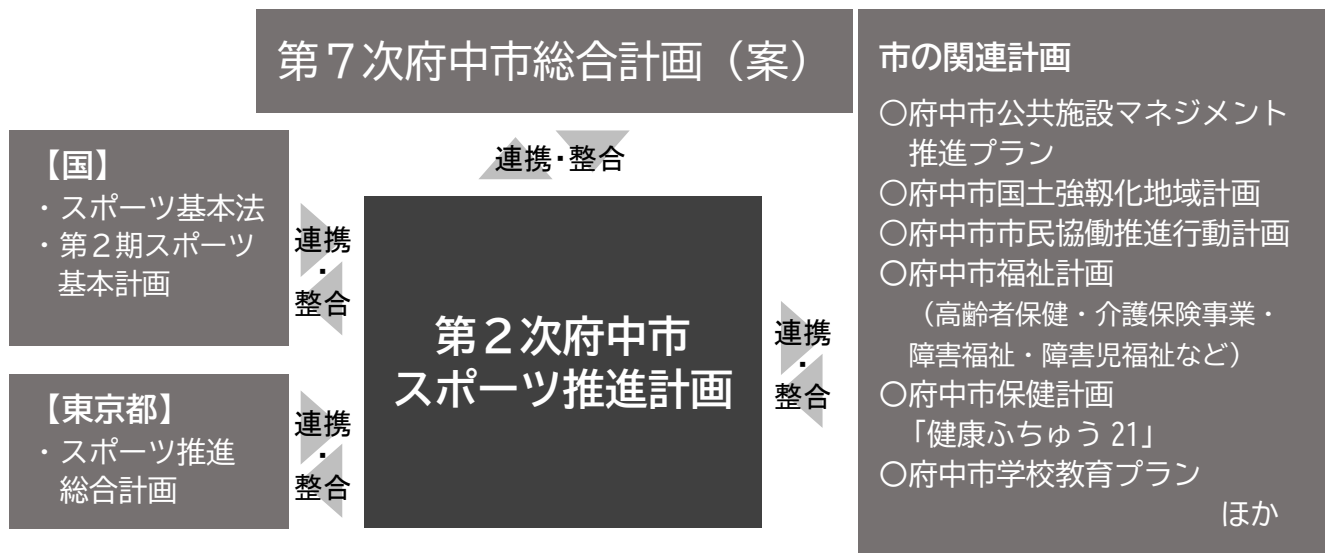
このほか、本計画策定に当たって実施した市民アンケートでは、一部の設問で、コロナ前とコロナ禍での行動変容を捉える内容を調査しました。その結果、スポーツの活動環境に制限がかかる中でも、本市における令和2年度のスポーツ実施率^{※1}は、前年より増加していることが分かりました。このことは、コロナ禍で運動不足にならないよう、市民のスポーツに対する意識が変化し、運動・スポーツを実施する機会が増えたことが一因と推察されます。

本計画では、コロナ禍においても、新しい運動の方法やアプローチを試みる機会と捉えて、ウィズコロナ・ポストコロナ時代の運動・スポーツ活動の在り方を探ることを前提としつつ、スポーツ施策の一層の推進を図り、スポーツタウン府中の更なる発展を目指します。

※1 週1日以上スポーツを実施する18歳以上の市民の割合

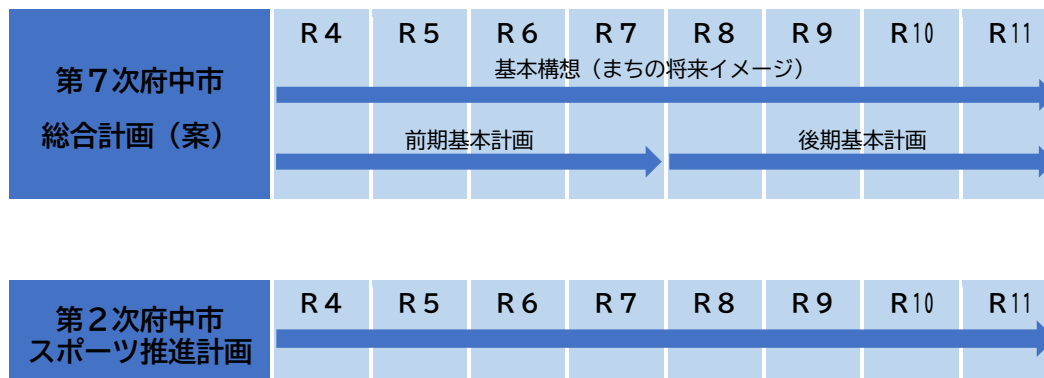
4 計画の位置付け

本計画は、市の最上位計画である「第7次府中市総合計画(案)」の下、市の関連計画や国、都の取組との整合を図った計画とします。



5 計画の期間

第7次府中市総合計画(案)の計画期間に準じ、令和4年度から令和11年度までの8年間を計画期間とします。



6 SDGsについて

持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、平成27年9月の国連サミットにおいて採択された国際社会全体の共通目標です。この共通目標は、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、令和12年までの間に達成すべき17のゴール(目標)と、169のターゲットから構成されています。

日本では、平成28年12月にSDGs実施指針が策定され、自治体においても、各種計画の策定などに当たってSDGsの要素を反映することが奨励され、SDGsの達成に向けた取組を推進していくことが求められています。

本市の「第7次府中市総合計画前期基本計画(案)」では、各施策とSDGsの17の目標との関係を意識して施策を展開し、SDGsの達成に寄与することを目指していることから、本計画の施策においてもその考え方を反映しています。



第2章

現状と課題

第2章 現状と課題

1 市民の意識

(1) 調査概要

ア 市民向け調査

対象	配付数	回収数 (回収率)	有効回答数 (回収率)	配付・回収方法
18歳以上の 府中市民	2,000	1,011 (50.6%)	1,009 (50.4%)	「住民基本台帳」から 無作為抽出し、郵送配付・回収

イ 子ども向け調査

対象	配付数	回収数	有効 回答数	配付・回収方法
市内全小学校(22校) 小学5年生 各1クラス	862*	732	723	学校交換便にて配付・回収
市内全中学校(11校) 中学2年生 各2クラス	879*	762	762	学校交換便にて配付・回収

※対象のクラスは各学校で決定したため、予備を含んで部数を配付しています。

(2) 調査時期

ア 市民向け調査

令和2年9月29日(火)から11月12日(木)まで

イ 子ども向け調査

令和2年9月29日(火)から11月12日(木)まで

(3) 市民向け調査の結果

ア スポーツ実施率※1

新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を考慮することを目的として、年度の境目を目安にスポーツの実施状況の違いを把握した。

令和2年3月31日まで	令和2年4月1日以降
59.8%	60.8%

(N※2=755)

(N=790)

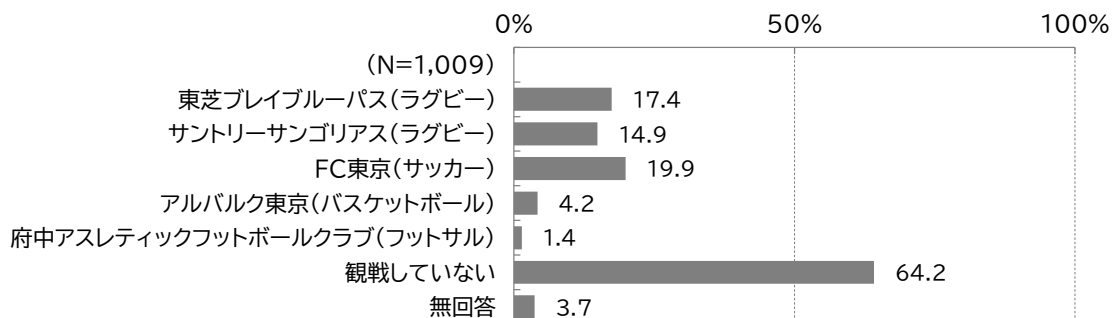
参考

東京都 57.2% (出典「都民のスポーツ活動・パラリンピックに関する世論調査(平成30年9月)」)

国 59.9% (出典「スポーツの実施状況などに関する世論調査(令和2年11月)」)

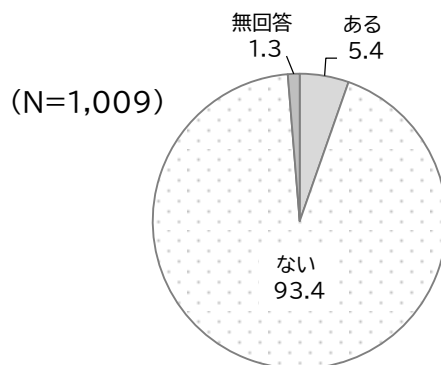
イ トップチームの観戦状況

「観戦していない」が64.2パーセントと最も多く、次いで「FC東京(サッカー)」が19.9パーセント、「東芝ブレイブルーパス(ラグビー)」が17.4パーセントとなっている。



ウ スポーツに関するボランティア活動を行った経験 (令和2年3月31日まで)

「ない」が93.4パーセントと最も多く、次いで「ある」が5.4パーセント、「無回答」が1.3パーセントとなっている。

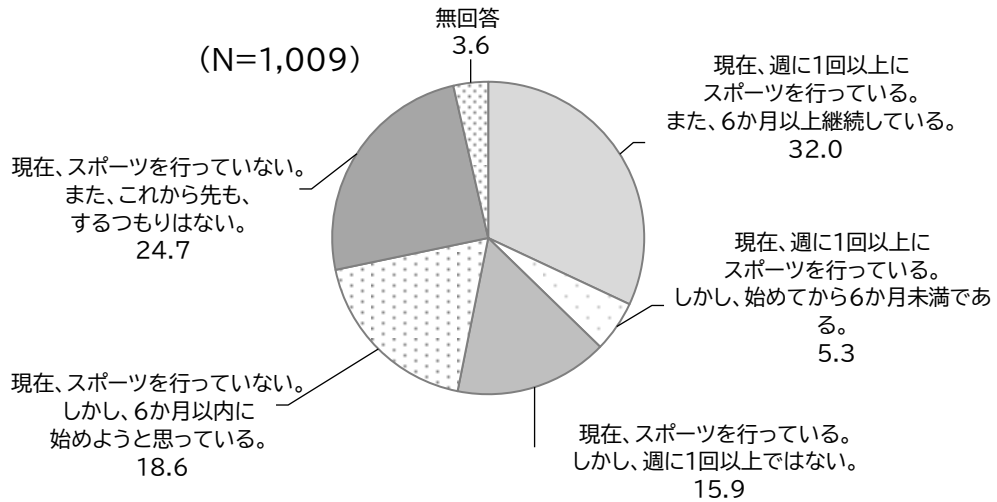


※1 週1日以上スポーツを実施する18歳以上の市民の割合

※2 設問に対する回答者の数

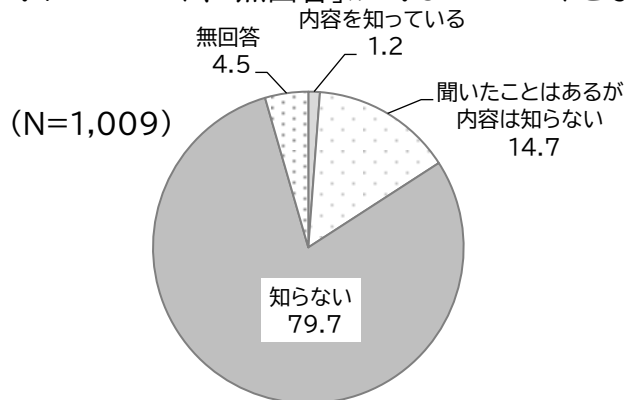
エ スポーツの実施状況や考え方

「現在、週に1回以上にスポーツを行っている。また、6か月以上継続している。」が32.0パーセントと最も多く、次いで「現在、スポーツを行っていない。また、これから先も、するつもりはない。」が24.7パーセント、「現在、スポーツを行っていない。しかし、6か月以内に始めようと思っている。」が18.6パーセントとなっている。



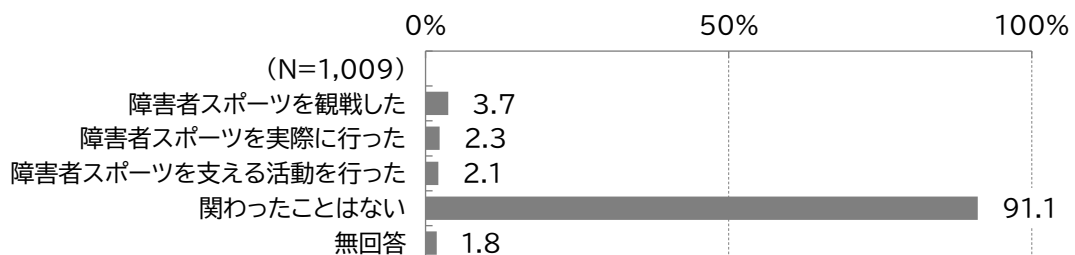
オ 「スポーツタウン府中」の認知度

「知らない」が79.7パーセントと最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らない」が14.7パーセント、「無回答」が4.5パーセントとなっている。



カ 障害者スポーツに関わった経験

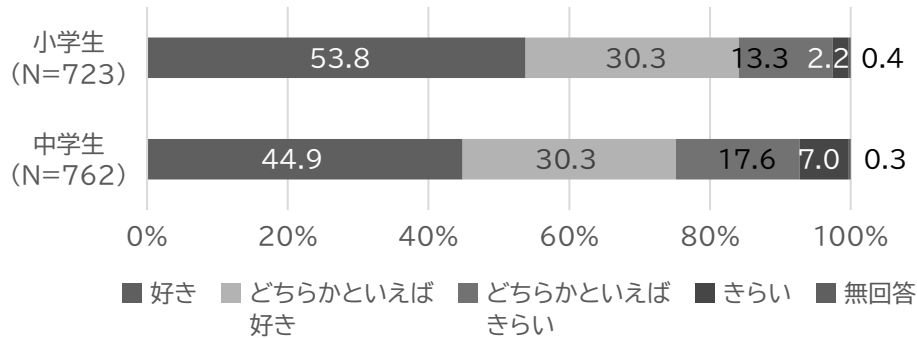
「関わったことはない」が91.1パーセントと最も多く、次いで「障害者スポーツを観戦した」が3.7パーセント、「障害者スポーツを実際に行った」が2.3パーセントとなっている。



(4) 子ども向け調査の結果

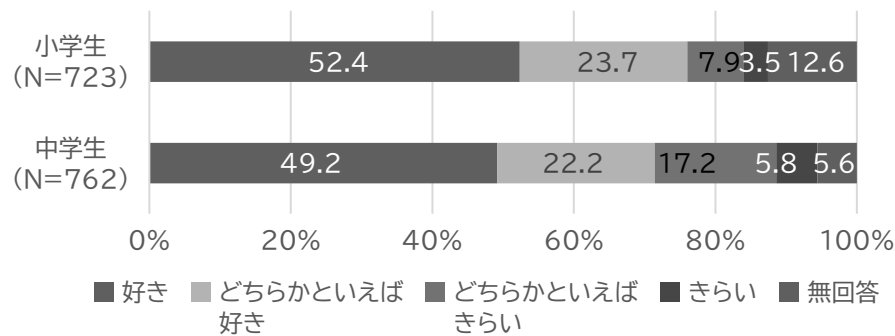
ア 外で遊ぶことの好き嫌い

年齢が上がるにつれて、外で遊ぶことが「好き」と答える子どもが減っている。



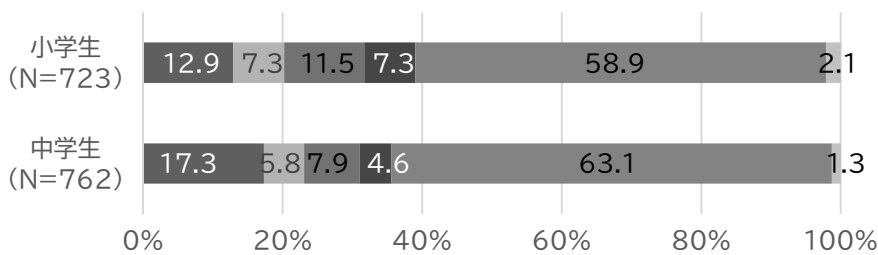
イ 運動やスポーツをすることの好き嫌い

年齢が上がるにつれて、運動やスポーツをすることが「好き」と答える子どもが減っている。



ウ スポーツの実施状況や考え方

年齢が上がるにつれて、「現在、スポーツを行っていない。また、これから先も、するつもりはない。」子どもの割合が増えている。一方で、「現在、週に1回以上にスポーツを行っている。また、6か月以上継続している。」子どもの割合も増えている。



- 現在、スポーツを行っていない。また、これから先も、するつもりはない。
- 現在、スポーツを行っていない。しかし、近い将来(6か月以内)に始めようと思っている。
- 現在、スポーツを行っている。しかし、定期的(週に1回以上)ではない。
- 現在、定期的(週に1回以上)にスポーツを行っている。しかし、始めてから6か月未満である。
- 現在、定期的(週に1回以上)にスポーツを行っている。また、6か月以上継続している。
- 無回答

2 スポーツに関わる組織・団体など

(1) 特定非営利活動法人府中市体育協会及び体育協会加盟団体

本市のスポーツ競技団体が加盟する府中市体育協会は、昭和33年に設立され、平成20年にはNPO法人格を取得しました。現在は、31の競技団体が加盟しています。

府中市体育協会は、市との共催により、市民体育大会と市民スポーツ・レクリエーションフェスティバルを開催するほか、東京都からの委託事業を実施しています。

加盟団体

陸上競技協会	野球連盟	ソフトテニス連盟
柔道連盟	剣道連盟	卓球連盟
相撲連盟	バレーボール連盟	弓道連盟
水泳連盟	バスケットボール連盟	スキー連盟
サッカー連盟	アマチュア飛行連盟	空手道連盟
ハンドボール連盟	バドミントン連盟	ソフトボール連盟
庭球連盟	体操連盟	乗馬連盟
なぎなた連盟	クレー射撃連盟	ライフル射撃協会
テコンドー協会	居合道連盟	ダンススポーツ連盟
ゲートボール協会	ターゲットバードゴルフ協会	ゴルフ連盟
グラウンドゴルフ協会		

(2) その他のスポーツ団体

市内には、体育協会加盟団体のほか、社会教育関係団体やレクリエーション種目・ジュニアスポーツ統括団体など、多くの団体がスポーツ活動を行っています。

(3) 府中市スポーツ推進委員会

スポーツ基本法第32条により、教育委員会より委嘱を受けた非常勤特別職の公務員であるスポーツ推進委員で構成されています。市民スポーツの推進のため、事業実施に係る連絡調整及び実技指導を行っています。現在は、22名の方が活動しています。

(4) 総合型地域スポーツクラブ

総合型地域スポーツクラブとは、幅広い年代と競技レベル、そして多様な種目に対応した、地域住民によって自主的に運営されるスポーツクラブです。平成23年10月、本市で初となる総合型地域スポーツクラブ「府中市総合型f-エフスポーツクラブ」が創設され、卓球、アジャタ(競技玉入れ)などの活動をしています。さらに、令和2年3月には、「すたあと」が創設され、バドミントン、バレーボールなどの活動をしています。

(5) 府中コムスポ協力者

スポーツの知識や経験をいかし、イベント運営や指導に協力いただく市民などを、「府中コムスポ協力者」として登録しています。コムスポリーダーは市のスポーツイベント・教室での企画及び指導を、コムスポボランティアは市のスポーツイベント・教室での運営協力を行なっています。現在は、28名のコムスポリーダー、33名のコムスポボランティアが活動しています。

(6) トップチーム

市内を拠点として、FC東京(サッカー)、東芝ブレイブルーパス東京(ラグビー)、東京サントリーサンゴリアス(ラグビー)、アルバルク東京(バスケットボール)、府中アスレティックフットボールクラブ(フットサル)が活動しています。

3 スポーツ施設

(1) 市内のスポーツ施設

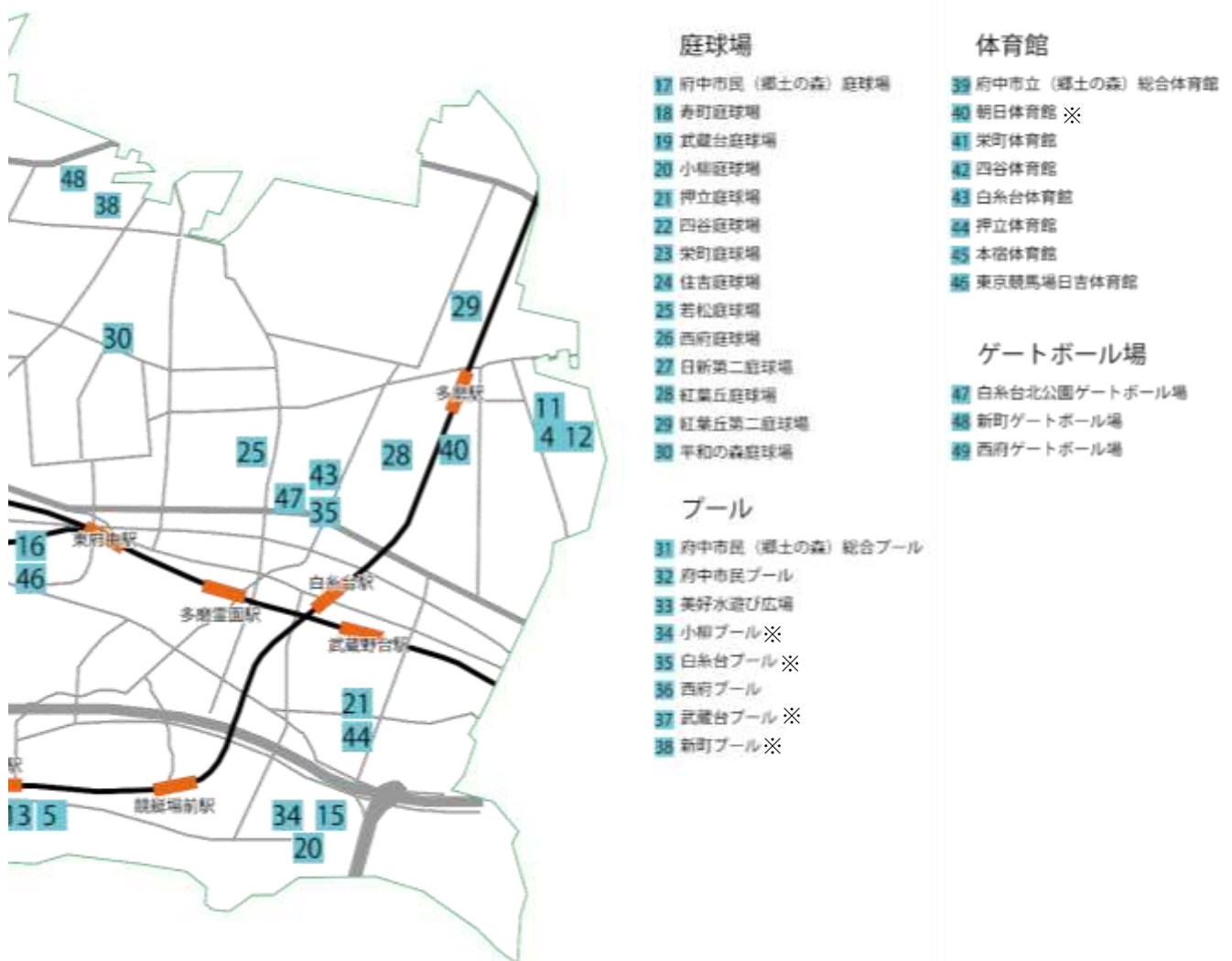
市内には、総合体育館及び地域体育館8か所、野球場7か所、ソフトボール場1か所、庭球場14か所、屋外プール8か所、サッカー場3か所、陸上競技場1か所、ゲートボール場3か所、運動広場4か所の計49か所のスポーツ施設が整備されています。



(2) その他のスポーツ活動の場

(1)のスポーツ施設のほかに、スポーツ活動の場として、生涯学習センターには体育室、トレーニング室、温水プールが、都立府中の森公園には庭球場、野球場、サッカー・ホッケー場があります。

また、市では、学校教育に支障のない範囲で、市立小・中学校の体育館と校庭をスポーツ活動の場として一般に開放しているほか、一部の学校では夏季のプール開放を試行的に実施しています。



※の施設は、令和4年3月31日をもって廃止

4 関係団体ヒアリング

(1) ヒアリング対象と項目

本調査は、団体間の連携施策の検討や市民アンケートを補完するための調査として位置付け、次の13団体・組織にヒアリングを実施しました。

	対 象	項 目
スポーツ 関連 団体等	【5者】 ・市内スポーツ施設管理者 ・(特非)府中市体育協会 ・府中市スポーツ推進委員会 ・総合型地域スポーツクラブ ・府中コミスポ協力者	・活動概要 ・組織体制 ・関連施設、団体との連携 ・指導者の確保 ・事故対策 ・運営に関する課題 ・市民のスポーツや運動に対する認識、取組状況 ・トップスポーツとの連携 ・今後の展望 ・市への要望 など
トップ チーム	【5者】 ・FC東京 ・東芝ブルーパス東京 ・東京サントリーサンゴリアス ・アルバルク東京 ・府中アスレティックフットボールクラブ	・活動概要 ・組織体制 ・市内の団体との連携 ・市民との交流 ・トップアスリートの社会貢献 ・情報発信
その他 団体等	【1者】 ・府中市社会福祉協議会	・障害者のスポーツの意識、実施状況、課題 ・障害者スポーツを支える立場の現状、課題 ・スポーツを通じた共生社会の実現 ・今後の展望
	【2課】 ・建築施設課 ・観光プロモーション課	・計画における課題の整理 ・施策の検討 など

(2) ヒアリング結果の要点

市民のスポーツ推進について

ア スポーツ関係団体

- 健康志向の高まりから、スポーツへの意識は高まっていると感じる。公園などスポーツ施設以外の場所で自主的にスポーツを楽しんでいる市民は多いだろう。
- スポーツが競技志向だけでなく楽しむものだという考えを持つ子どもや保護者も増えてきていると感じている。

イ 市内トップチーム

- 地域体育館が地域のコミュニティに根付いている。身近にスポーツをする環境があり、行動層も多い。
- 障害者スポーツに関心のある市民も少なくないと感じている。

ウ その他団体等

- コロナ禍で施設の利用機会が減少した一方で、スポーツ施設が発信する動画などを見て、身近な場所や自宅で体を動かそうという人が増えた。

課題

ア スポーツ関係団体

- 連携・協働に当たって、各組織、役職などの立ち位置の整理は必要かもしれない。
- 市内のスポーツ施設は、いつでも誰でも楽しく使えるという雰囲気はあまりないかもしれない。無関心層の行動変容につながるきっかけを充実していけるとよい。
- 情報をできるだけタイムリーに発信していくことが重要だと考えている。
- コロナ禍を経て、スポーツを通した横のつながりが薄れてきている。スポーツを通した生きがいづくりのコーディネートに取り組んできたが、それが実行できていない。

イ 市内トップチーム

- ビジョンを共有し、継続的に連携できるパートナーとの関係を構築していきたい。事業単発で終わらないようにしたい。
- 市内のスポーツ関係団体をフラットにつなぐプラットフォームがあるとよい。継続的に情報交換、意識共有する座組ができるとよい。

ウ その他団体等

- スポーツの力を活用して、インクルーシブ^{※1}なまちづくり・地域づくりについて考えていけるとよい。

今後の展望、市・スポーツ施策への要望・意見等

ア スポーツ関係団体

- 事業について、参加人数などのアウトプットだけでなく、意識が変わる人が増えるなど、アウトカムの視点で評価される仕組みがあるとよい。スタート時は参加者が少なくても、少しずつ市民の意識が変わっていく取組もある。一定程度の期間を見る視点も重要だろう。
- 次期スポーツ推進計画は数値目標の達成ありきでなく、ビジョンを共有して市内のスポーツ関係者が連携していく指針となるとよい。

イ 市内トップチーム

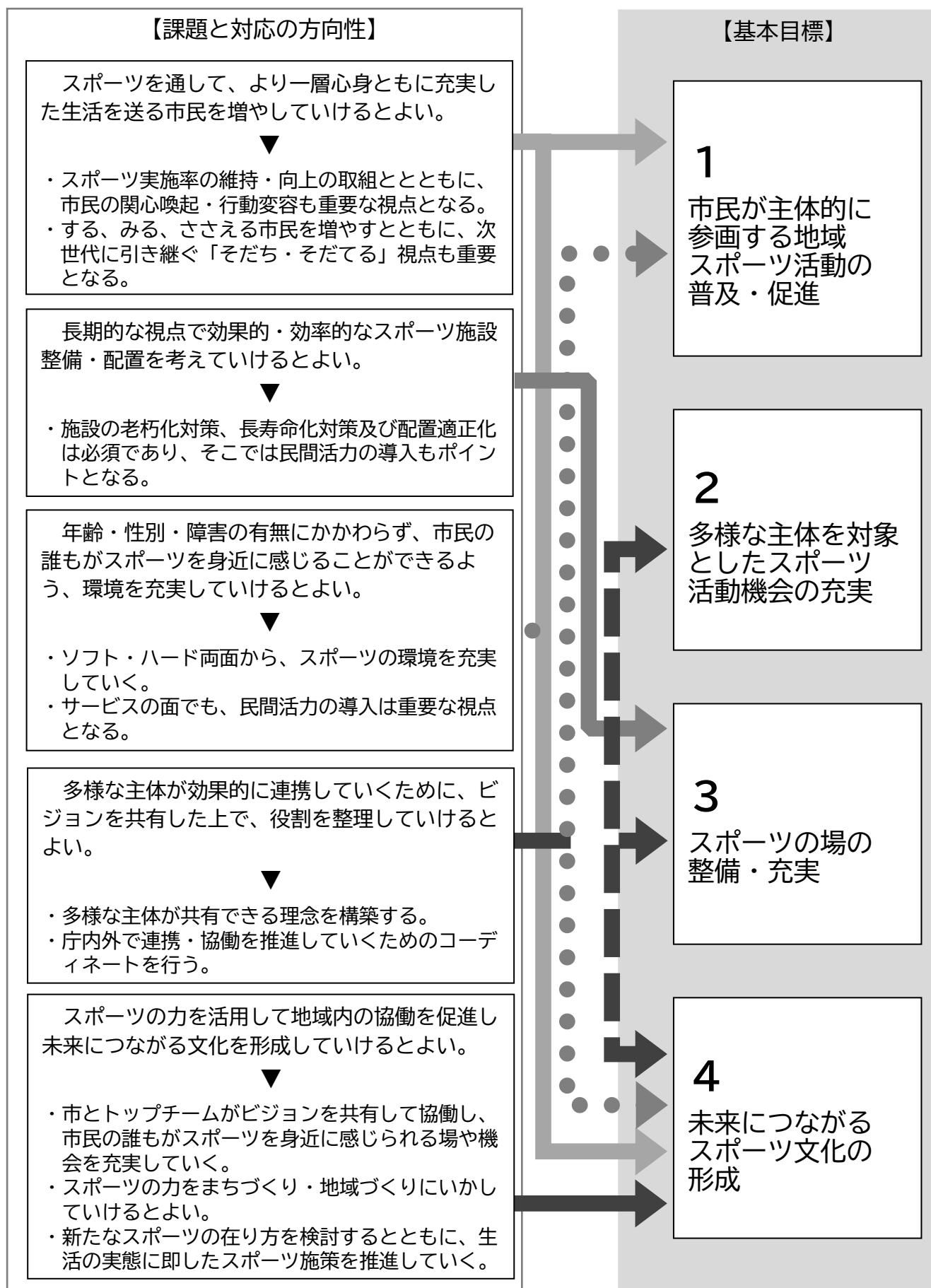
- 各組織・団体ができることを整理して役割分担し、協働で市民の関心喚起・行動変容を促していくことが重要だと考えている。市が旗振りし、行政としてできること、民間に任せたいことを整理してほしい。

ウ その他団体等

- 障害の有無にかかわらず、誰もが身近に利用できるスポーツ施設を充実していくことが重要だろう。
- スポーツの力を活用した地域活性化について、民間事業者とも意見交換していけるとよいのではないか。

※1 あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう援護し、社会の構成員として包み、支え合うという社会政策の理念

5 課題と対応



第3章

計画の基本的な考え方

第3章 計画の基本的な考え方

1 スポーツとは

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進に寄与し、人々の生活を明るく豊かにします。また、人と人、更には人と地域とのつながりを生み、まちににぎわいを創出し、活力に満ちた社会をつくれます。

スポーツ基本法では、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人の権利であり、全ての国民がその自発性の下に、各々の関心、適性などに応じて、安全かつ公正な環境の下で、日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画することのできる機会が確保されなければならない。」とされています。

こうした考えを踏まえ、本計画におけるスポーツとは、「競技スポーツに限らず、日常生活の中で、健康の維持・増進や人との交流を楽しむことなど、様々な目的で自発的に体を動かすこと」として定義しています。



府中駅伝競走大会



歩いて知ろうわがまち府中



ちょこっとスポーツ体験



ボールふれあいフェスタ

2 基本理念

スポーツタウン府中の発展

この計画において、「スポーツタウン府中」とは、次のようなまちを意味します。

- 市民が日常生活にスポーツを取り入れ、元気で健康に暮らしているまち
- スポーツを通じた交流とにぎわいのあるまち
- 市民が市内トップチーム、アスリートに愛着を持ち、応援しているまち
- 市民がスポーツを通じて、市民としての誇りを持つまち



3 基本目標

本計画では、基本理念の「スポーツタウン府中の発展」に向け、以下の4つの基本目標を掲げ、施策を推進していきます。

また、4つの基本目標を掲げるに当たり、本市のスポーツ施策と特に関連のあるSDGsの目標を3つ設定し、SDGsの目標との関係を意識して取組を進めていきます。

基本目標 1

市民が主体的に参画する地域スポーツ活動の普及・促進

- 各スポーツ団体が主体的に活動できるよう支援に努めるとともに、レクリエーションスポーツ、競技スポーツ、障害者スポーツなど、多様なニーズに応じて適切な指導を行うことができる人材の育成に取り組めます。
- 社会環境の変化に伴うスポーツの役割の多様化や、市民のスポーツに対するニーズの変化を施策に反映させるため、ニーズを捉えたスポーツ推進体制の強化を図ります。

基本目標 2

多様な主体を対象としたスポーツ活動機会の充実

- 身近にスポーツに参加できる活動環境の充実のほか、市民の誰もがそれぞれの体力や能力・年齢・目的・スポーツへの関心度に応じ、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツを楽しむことができる機会の充実を図ります。
- 障害の有無にかかわらず、市民が共にスポーツを楽しむことができるよう、障害者スポーツの理解促進や環境づくりに取り組めます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



基本目標 3

スポーツの場の整備・充実

- スポーツ施設・設備の老朽化などに関する課題について、安全で快適なスポーツ環境を整備するため、本市が進める公共施設マネジメント推進プランを始めとする関係計画などに沿って、施設の老朽化対策のほか、「スポーツタウン府中」の将来を見据えた取組を図ります。
- 市民が生活に身近な場所で、スポーツに親しむことができるように「する」視点のほか、近年の多様化するスポーツの需要を踏まえ、「みる」視点を始めとする、様々な視点でスポーツ環境の充実に取り組みます。

基本目標 4

未来につながるスポーツ文化の形成

- 市内トップチームとの連携と協働により、市民交流の促進や観戦機会などの充実に取り組み、スポーツ人口の裾野の拡大やトップチームを支える文化の定着につなげます。
- スポーツの魅力のほか、トップチームや東京2020大会のレガシーなど市が有するスポーツ資源や積み重ねてきた取組を引き継ぎ、地域の活性化や地域における一体感や連帯感、本市への愛着や誇りの醸成を図ります。

4 数値目標

本計画の達成状況を把握するため、目標年度を令和11年度に定め、計画全体に関わる指標及び各基本目標に関わる指標を設定します。

なお、計画全体の指標「スポーツ実施率」及び基本目標4の指標「トップチームの観戦状況」は、「第7次府中市総合計画前期基本計画(案)」の数値目標^{※1}と共通の指標です。

また、基本目標1の指標「ボランティアの参加状況」及び基本目標2の指標「障害者スポーツに関わった市民の割合」の現状値は、令和2年度に新たに調査し、初めて把握した数値であるほか、計画全体の指標「スポーツの実施率」及び基本目標4「トップチームの観戦状況」の現状値は、前年度の調査結果等と比較し、コロナ禍の影響を受けていないことが確認できたため、いずれも令和2年度の調査結果を現状(基準)値としています。

	指標	現状値(R2)	目標値(R11)
計画全体	スポーツ実施率【P9ア】	60.8%	63%
基本目標1	ボランティアの参加状況【P9ウ】	5.4%	8%
基本目標2	障害者スポーツに関わった市民の割合【P10カ】	7.1% ^{※2}	10%
基本目標3	スポーツ施設の利用者数	743,246人 ^{※3}	1,493,967人
基本目標4	トップチームの観戦状況【P9イ】	32.1% ^{※4}	35%

※1 第7次府中市総合計画前期基本計画(案)の目標年度は、令和7年度であり、本計画の目標値とは相違があります。

※2 「関わったことはない」及び「無回答」を除いた割合

※3 令和2年度決算値。令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、プールの開催中止及びスポーツ施設の一時閉鎖をしました。目標値の算出に係る基準値は、平成30年度の1,422,826人

※4 「観戦していない」及び「無回答」を除いた割合

5 施策を推進する4つの視点

(1) そだち・そだてる

市民一人一人がスポーツを通して受けた恩恵を地域社会や次の世代へ引き継ぎ、分け与えることは、スポーツに関わる喜びを増大させることとなります。このように、自らの「そだち」から他者を「そだてる」ことにつながられるよう、社会貢献をする人材・スポーツ団体の育成やボランティア活動を円滑にする仕組みづくりなど、「そだち・そだてる」視点で施策を推進します。

(2) する

スポーツを「する」ことは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進に寄与し、元気で健康な生活を送ることができます。誰もがスポーツに触れ合える機会の提供や、スポーツを実施する場の整備など、「する」視点で施策を推進します。

(3) みる

スポーツイベントや大会・試合の観戦を始め、子どもや友人が実施する競技の応援など、スポーツを「みる」ことは、楽しみや喜びを共感でき、スポーツに親しむきっかけを生むことにもつながります。スポーツを見る機会の提供や、市民がスポーツを通して楽しみや喜びを得られるような取組を、「みる」視点で施策を推進します。

(4) ささえる

スポーツに関わる人をサポートし、様々な手法・立場でスポーツ活動が発展していくよう「ささえる」ことは、スポーツの主役と同様に感動や興奮を共有でき、スポーツ文化を継続させることに寄与します。イベントの運営協力などを行うスポーツボランティア制度の維持・充実はもとより、企業や学校など、それぞれの特長や特性をいかした連携の強化など、「ささえる」視点で施策を推進します。

6 施策体系（イメージ）

基本理念	基本目標	基本施策
スポーツタウン府中の発展	<p>1</p> <p>市民が主体的に参画する 地域スポーツ活動の 普及・促進</p>	<p style="text-align: right;">【新】：新規施策</p> <p>(1) 人材・組織の育成・活用</p> <p>(2) ニーズを捉えたスポーツ推進体制の強化</p>
	<p>2</p> <p>多様な主体を対象とした スポーツ活動機会の充実</p>	<p>(1) ライフステージに応じたスポーツ活動の 促進</p> <p>(2) 障害者スポーツ活動の普及</p>
	<p>3</p> <p>スポーツの場の 整備・充実</p>	<p>(1) スポーツ施設・設備の再整備</p> <p>(2) 身近にあるスポーツ活動の場の整備</p>
	<p>4</p> <p>未来につながる スポーツ文化の形成</p>	<p>(1) スポーツを通じた交流の促進【新】</p> <p>(2) スポーツを活用したシティプロモーションの 推進【新】</p> <p>(3) 市内トップチーム等との連携強化【新】</p> <p>(4) スポーツ情報の発信強化・関心喚起【新】</p>

視点	取組の方向性（案）
	<p style="text-align: right;">★：重点項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ団体の支援・連携 ● 地域のスポーツ指導者等の育成 ★ ● スポーツ振興活動支援事業
	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ推進委員活動事業 ● スポーツ推進会議（仮称）等の設置の検討 ★
	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツ参加のきっかけづくり ★ ● 各種スポーツ大会等の開催を通じた交流の場の提供 ● 運動を通じた健康づくりの推進
	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害者スポーツの環境づくり ★ ● 障害者スポーツへの理解促進 ● 障害者スポーツを通してつながる
	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合体育館の移転（建て替え）の検討 ★ ● スポーツ施設の適正配置及び運営方法に関する検討 ● スポーツ拠点の整備・活用 ● 施設使用料等の適正化 ● 屋外プールの在り方の検討
	<ul style="list-style-type: none"> ● 総地域に密着した地域体育館の管理 ● 学校施設の地域開放 ● スポーツ施設の特長・魅力等の継承 ★
	<ul style="list-style-type: none"> ● 世代間交流の促進 ★ ● 学校との連携・協働 ★ ● スポーツ推進会議（仮称）等の設置の検討（再掲）
	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツを通じた府中市の魅力発信 ★ ● 「ラグビーのまち府中」の推進 ★
	<ul style="list-style-type: none"> ● トップスポーツの観戦・応援機会の充実 ● 市内トップチーム等との連携体制の構築 ★ ● 近隣市との連携
	<ul style="list-style-type: none"> ● ニーズを捉えた情報の発信と環境の検討 ● 民間事業者との連携 ● 市にゆかりのある選手の情報発信 ● 東京 2020 大会等のレガシーの継承・発展★

ラグビー



「東芝ブレイブルーパス東京」

◆選手への質問◆

- ・プロを目指したきっかけ
→東芝ブレイブルーパス東京から声を掛けてもらったからです。
- ・プロ選手として活躍していて、うれしい瞬間
→応援してくださるファンの方から声を掛けてもらったときや、試合に勝ち、その瞬間をファンの皆さんと共有できていると感じたときです。
- ・スポーツに関連する府中の魅力
→街中にチームのフラッグが飾られていたり、大國魂神社の節分祭などのイベントに呼んでもらったり、市民の皆さんと身近に関わりを持てることです。



◆チームの主要な沿革◆

1948年 創部
1987年 全国社会人大会初優勝
2004・2005年度 ジャパンラグビートップリーグ連覇



◆選手基本情報◆

- ・名前 徳永 祥晃とくなが しょうか・ポジション ナンバーエイト (No. 8)
- ・出身 兵庫県 ・生年月日 1992年4月10日



チームのHPはこちら

ラグビー



「東京サントリー

サンゴリアス」

◆選手への質問◆

- ・プロを目指したきっかけ
→ワールドカップに出場したいという思いからです。
- ・プロ選手として活躍していて、うれしい瞬間
→大歓声の中でプレーをしているときです。
- ・スポーツに関連する府中の魅力
→市民の皆さんが地元のチームを応援してくれることです。



◆チームの主要な沿革◆

1980年 創部
1995年 全国社会人大会初優勝
2016年度 ジャパンラグビートップリーグ全勝優勝



◆選手基本情報◆

- ・名前 中村 晃士なかむら しょうと ・ポジション センター
- ・出身 鹿児島県 ・生年月日 1991年6月3日



チームのHPはこちら

第4章

施策の展開と具体的な取組

第4章 施策の展開と具体的な取組

基本目標1

市民が主体的に参画する地域スポーツ活動の普及・促進

(1) 人材・組織の育成・活用



各スポーツ団体が安定的・継続的に活動できるよう、組織力を高めるための支援を引き続き行います。また、市のスポーツ施策を展開するに当たり、これらの団体を積極的に活用することで、多様なスポーツニーズに対応する、効果的なスポーツの振興を図ります。

市民が、生涯を通して、自己の能力・適性、興味・関心などに応じ、主体的にスポーツ文化を豊かに享受することのできるスポーツライフを構築するためには、その先導者となる存在が重要となることから、スポーツ指導者などの人材の育成を図ります。

○ スポーツ団体の支援・連携

(特非)府中市体育協会の自主財源の確保などの基盤強化に助力するとともに、加盟団体の統括はもとより、加盟団体以外の団体(市内トップチームなど)との関係構築を支援し、連携事業実施を促します。

また、各競技統括団体(連盟・協会)、総合型地域スポーツクラブ、社会教育関係団体などの市内スポーツ団体の会員募集や活動場所の確保などに努め、地域貢献活動の参加・協力を促します。

【重点】地域のスポーツ指導者等の育成★

府中コミスポ協力者登録制度への登録促進を図り、スポーツ指導者の知識や経験に合わせた活動機会を提供するとともに、登録者を対象とした講習会などを実施し、知識や技術の獲得をサポートします。

また、市内トップチームが実施するジュニアスポーツ指導者対象の講習会などを、指導者スキル獲得のニーズに結び付けられるよう、情報共有を図り、トップチームの活動を支援します。

○ スポーツ振興活動支援事業

府中市体育協会加盟競技団体などが実施する事業や、ジュニアスポーツ活動、市民及び市内で日常活動しているスポーツクラブや個人が、全国大会、関東大会に出場する際の経費に対して、必要な支援を行うことにより、市内のスポーツ活動の機会拡充を促進します。

(2) ニーズを捉えたスポーツ推進体制の強化



社会環境の変化に伴うスポーツの役割の多様化や、市民のスポーツに対するニーズの変化を捉えたスポーツ振興を図るためには、市と市内スポーツ関係者の協働が重要となることから、スポーツ推進体制の強化を図ります。

○ スポーツ推進委員活動事業

スポーツ推進委員がスポーツ振興のコーディネーターとして、市と協働して、スポーツ教室、レクリエーション事業の企画運営、地域スポーツ活動の指導助言を行うとともに、講習会を通して府中コミスポ協力者の育成が図られるよう、スポーツ推進委員の活動を支援します。

また、スポーツ推進委員が、地域からの情報やニーズを酌み取る、市民と行政とのパイプ役として活動できるように必要な支援を行います。

【重点】 スポーツ推進会議(仮称)等の設置の検討★

スポーツに関わる人々の交流を促進し、「スポーツタウン府中の発展」を目指して、市内スポーツ関係者やスポーツに関する知見を有する学識経験者などが、それぞれの強みをいかし、協働できるよう、横断的な協議・連絡体制の構築を検討します。



指導者研修会



かけっこ教室

基本目標2

多様な主体を対象としたスポーツ活動機会の充実

(1) ライフステージに応じたスポーツ活動の促進

ジュニアからシニアまで、市民がそれぞれのライフステージに合わせて、自主的・自発的にスポーツ活動に親しめる場や機会を創出し、市民のスポーツ活動を促進します。また、事業の実施に当たっては、既存事業の見直しも含め、発展的に展開していくことを目指します。



【重点】 スポーツ参加のきっかけづくり★

郷土の森総合体育館や地域体育館、その他体育施設などにおいて、様々な世代を対象としたスポーツ教室を開催し、また、コロナ禍で取り組んだオンライン配信による自宅運動などを継続し、市民が身近な場所でスポーツに参加できる機会の充実を図ります。

また、各文化センター圏域において、各種スポーツイベントなどの開催を通じて、日常生活にスポーツを定着させます。

○ 各種スポーツ大会等の開催を通じた交流の場の提供

市民の競技的スポーツ活動に対して、日頃の活動発表の場とスポーツを通じた地域交流の場として、ジュニアからシニアにわたる幅広い年代を対象とした各種スポーツ大会を開催します。

また、親子や家族が気軽にスポーツをすることの喜びや楽しさを体験できる、スポーツ・レクリエーションを開催します。

○ 運動を通じた健康づくりの推進

在宅勤務などにより自宅で過ごす時間が増えている現状に合わせ、全ての世代の方々の運動不足の解消と家族で楽しむことができるレクリエーションの普及を図ります。

また、競技スポーツを実施していない人でも、身近な場所で運動や体を動かす機会を得られるよう、都立公園などの活用を促し、場のにぎわいや人々の交流を促進させます。

さらに、関係各課が実施している、観光マップやウォーキングマップの作成や、生活習慣病予防や健康づくりを目的とした事業などを周知・活用することにより、運動機会の創出に結び付けます。

(2) 障害者スポーツ活動の普及

障害者スポーツへの興味関心を喚起する機会を提供するとともに、障害の有無にかかわらず、誰もが一緒にスポーツを楽しむことができる環境づくりを促進し、共生社会の実現を目指します。そのための本市のモデル事業として、ボッチャをツールとした事業を展開していきます。

【重点】 障害者スポーツの環境づくり★

地域体育館の一般開放を始め、身近なスポーツの場において障害者スポーツを取り入れ、障害の有無にかかわらず自由に日常的に障害者スポーツを楽しめる環境を提供します。

また、障害者スポーツの指導者を育成するため、審判講習会や障害について理解を深める研修などを実施し、障害者スポーツを普及させるための体制を強化します。

○ 障害者スポーツへの理解促進

市が実施するイベントなどに、ボッチャを始めとする障害者スポーツの体験ブースを設け、障害者スポーツの普及啓発を目指します。

また、特別支援学級のある市内小学校などへ、障害者スポーツの出前講座を実施し、子どもたちが障害者スポーツに触れるきっかけづくりを提供します。

○ 障害者スポーツを通してつながる

市内の特別支援学校や関係課、障害者団体などと連携し、障害者スポーツの大会を実施し、障害の有無にかかわらず、誰もが一緒にスポーツを楽しめる機会を提供します。



府中市民体育大会



府中市ボッチャ大会

基本目標3

スポーツの場の整備・充実

(1) スポーツ施設・設備の再整備

市民の誰もがスポーツに親しむための拠点施設を整備するとともに、老朽化する既存施設の計画的な更新及び保全を図ります。

また、スポーツ施設は市が有する重要な資産であり、今後も安全で快適なスポーツ環境を維持するため、公共施設マネジメント推進プランなどに基づき、施設の規模や機能の整理・複合化や民間活力の導入など、多角的な視点を取り入れながら、将来に向けた整備に取り組みます。

【重点】 総合体育館の移転(建て替え)の検討★

昭和46年に開設し、昭和63年に増改築が行われた郷土の森総合体育館は、長らく市民のスポーツ活動の拠点として、また、市民体育大会を始めとする全市的なイベントの会場としても、多くの市民に親しまれてきました。

しかしながら、施設は開設から約50年を経過し、く体や建築設備の老朽化の進行が大きな課題となっていることから、現在、市内の府中基地跡地留保地内への移転(建て替え)を検討しています。

現在の総合体育館に代わる新たなスポーツ拠点として、今後の移転(建て替え)に当たっては、従来の機能であった市民が「する」スポーツ利用に加え、「みる」視点として、市の特長・資源であるトップチームの観戦・応援環境の整備を行います。また、災害時に必要な機能なども考慮しつつ、移転(建て替え)に向けて、新たな市民ニーズなどに応じて、必要な機能の整理や規模、施設の運営手法などの検討を進めます。

○ スポーツ施設の適正配置及び運営方法に関する検討

本市は他市に比べ、多くのスポーツ施設を有しており、市民の健康維持やスポーツ気運の醸成のみならず、地域でのコミュニティの形成にいかされています。

しかしながら、多くのスポーツ施設は、経年による老朽化が顕著となっているため、今後の更新に向けて、各施設の利用状況や市民ニーズなどを考慮しつつ、施設機能などの整理・配置の適正化に向けた検討を進めます。

その際には、市民サービスの向上や施設の更なる効果的・効率的な運営を図ることを目的として、既存の施設の運営方法については指定管理者制度などを、また施設の老朽化対策や新たな市民ニーズに伴う施設の整備・運営などに当たってはPFIをはじめとする民間活力の導入も含め検討を行います。

○ スポーツ拠点の整備・活用

スポーツ施設が多く集積する郷土の森エリア、寿町エリア、小柳町エリアを、引き続きスポーツ拠点として位置付けつつ、他のエリアにおいても既存のスポーツ施設の配置や市民ニーズの動向、各エリアの地域特性などを十分に考慮した上で、整備・活用を図ります。

○ 屋外プールの在り方の検討

総合プール及び地域プールは夏季の憩いの場として多くの市民に親しまれています。しかしながら、その中でも地域プールについては、開設当初に比べて利用者が減少しており、また、老朽化に伴う設備の大規模改修などにより、今後、多額の費用を要することが見込まれています。

このため、平成29年1月に策定した「学校施設の更なる活用と地域プールの見直しに係る基本方針」に基づき、大規模な設備改修時期を迎える際には、利用状況を始めとする市民ニーズの動向などを考慮した上で、施設の廃止を含めた検討のほか、夏季の学校プール開放の拡充について検討を進めます。

○ 施設使用料等の適正化

スポーツ施設(駐車場を含む。)の使用料については、サービスの最適化と受益者負担の在り方や近隣市の状況を踏まえ、施設使用料などの見直しを適宜行います。



府中市民球場



府中朝日フットボールパーク

(2) 身近にあるスポーツ活動の場の整備



市民のスポーツ参加拡充には、身近にスポーツのできる環境が整備されていることが重要になります。老若男女の地域住民が集い、スポーツ活動に親しむ環境基盤づくりを通じて、スポーツを通じた交流と地域コミュニティの振興を図ります。

○ 地域に密着した地域体育館の運営

市内6か所に設置された地域体育館は、地域における身近な施設として、地域住民の「する」スポーツを支えるとともに、地域住民で構成した「地域体育館運営協議会」が、市と協働して体育館の運営を行うことにより、地域コミュニティを醸成する場としての機能を担ってきました。

今後も、年齢や体力に合わせた運動を行う「健康づくり教室」を始めとする各種スポーツ教室のほか、地域の関係団体などと連携して「スポーツ・レクリエーション」などのイベントを実施することにより、スポーツを通じた地域住民の交流を図ります。

また、今後の総合体育館の移転(建て替え)に当たっては、その新たな機能や役割など、必要に応じて検討を行います。

○ 学校施設の地域開放

市では学校教育上支障のない範囲で、市立小・中学校施設を地域の身近なスポーツ・レクリエーション活動の場として一般に開放しており、令和2年度には、26校の校庭を70クラブが、33校の体育館を288クラブがスポーツ利用をしています。今後も、学校、教育委員会、利用団体との連携により、地域の身近なスポーツ活動の場として、夏季の学校プールの地域開放を含む学校開放運営事業を実施していきます。

【重点】 スポーツ施設の特長・魅力等の継承★

毎年、全国高等学校野球選手権大会地方大会が行われている市民球場のほか、良好な天然芝を有する府中朝日フットボールパークは、ラグビーワールドカップ2019では各国代表チーム、また、東京2020大会では7人制ラグビーの日本代表のキャンプ地となり、ラグビー競技のJOC認定競技別強化センター^{※1}に指定されています。

こうした「聖地」や「夢舞台」と称され、「する」と「みる」スポーツを両立した市内外に誇れるスポーツ施設が身近にあることの特長と魅力を、将来にわたって継承していくため、関係団体と連携して必要な施設管理のほか、その機能などの維持向上を図ります。

^{※1} JOC（日本オリンピック委員会）が各競技団体の選手強化活動が円滑に行えるよう、施設活用を支援していくことを目的に、選手強化活動への協力依頼と認定看板を設置する施設



FC TOKYO

サッカー

「FC東京」

写真

◆選手への質問◆

- ・サッカーを始めたきっかけ
→年長のときに周りの友達がサッカーをしているのを見て楽しそうだなと思ったからです。
- ・プロ選手として活躍していて、うれしい瞬間
→やはり試合に勝ったときと、自分が試合でゴールを決めたときです。練習で努力した成果が出た結果でもありますし、チームメイトやファン・サポーターの方々と喜びを分かち合える瞬間でもあるからです。
- ・サッカーを通して、「伝えたいこと」や「やりたいこと」
→サッカーの楽しさや、面白さを、サッカーをプレーしている子供たちにも、サッカーがあまり詳しくない人たちにも伝えていければと思います。また、サッカーやFC東京を通して、地域を盛り上げていくことができればいいなと思います。

◆チームの主要な沿革◆

- 1935年 前身である東京ガスフットボールクラブ創部
- 1992年 JFL 参入
- 1998年 JFL 初優勝
- 2004年 初のタイトル獲得

写真

◆選手基本情報◆

- ・名前 あべ しづと 安部 終斗
- ・ポジション ミッドフィールダー
- ・出身 東京都
- ・生年月日 1997年12月5日



チームのHPはこちら



TOKYO FUCHU ATHLETIC F.C.

フットサル

「府中アスレティック

フットボールクラブ」

◆選手への質問◆

- ・フットサル選手を目指したきっかけ
→小さい頃、総合体育館で行われていたアスレのホームゲームを観に行くと、アスレの選手達がとてもカッコよかったからです。
- ・フットサル選手として活躍していて、うれしい瞬間
→試合に勝った後、サポーターの方や子供たちの笑顔が見えたときです。
- ・スポーツに関連する府中の魅力
→小学生から大人(シニア)、女性の部まで、幅広い層の方が参加できるフットサル大会があるところです。

◆チームの主要な沿革◆

- 2000年 クラブ設立
- 2009年 Fリーグ参入
- 2015年 初のタイトル獲得
- 2017年 女子Fリーグ参入



◆選手基本情報◆

- ・名前 かなざわ そら 金澤 空
- ・ポジション アラ
- ・出身 東京都(府中市)
- ・生年月日 2001年12月26日



チームのHPはこちら

基本目標4

未来につながるスポーツ文化の形成

(1) スポーツを通じた交流の促進【新】



スポーツに関わる各主体の交流の促進を通じて、各主体の特長や強みをいかし、相乗効果を図ることにより、更なるスポーツ活動の活発化、地域の発展を目指します。

【重点】世代間交流の促進★

地域の最小単位である「家族」をターゲットにしたイベントの開催や、家族と一緒にスポーツに関われる機会を増やすことによって、スポーツに触れる機会がなかった市民や、ライフステージの変化によりスポーツとの関わりが希薄になっている市民がスポーツに触れ、スポーツを生涯継続できる仕組みを作ります。

【重点】スポーツ推進会議(仮称)等の設置の検討(再掲)★

スポーツに関わる人々の交流を促進し、「スポーツタウン府中の発展」を目指して、市内スポーツ関係者やスポーツに関する知見を有する学識経験者などが、それぞれの強みをいかし、協働できるよう、横断的な協議・連絡体制の構築を検討します。

○ 学校との連携・協働

市と連携・協働に関する相互友好協定書を結んでいる大学や、地域において社会貢献活動の参加に積極的な市内の高校とスポーツを通じて相互に連携・協働するほか、スポーツイベントや人材育成講習への参加、コミスポボランティアへの登録などにより、人材の育成と施策の充実を図ります。

また、学校の部活動の指導者として、地域人材の活用がより一層推進されるよう、学校や教育委員会へ地域資源の情報提供などの調整を行います。



みんなのスポーツday

(2) スポーツを活用したシティプロモーションの推進【新】

スポーツを観光資源と捉え、市民のスポーツへの愛着や観光・交流による地域の活力の向上などを目指し、スポーツを通じたまちづくりを推進します。また、スポーツを通じて多様な地域資源の魅力を発信することにより、地域資源の新たな価値・魅力の発見へつなげます。

【重点】 スポーツを通じた府中市の魅力発信★

スポーツ分野以外の歴史文化遺産や、豊かな自然環境を始めとする地域資源などの「まちの魅力」と、トップチームやスポーツ事業を関連させて市内外に発信することにより、情報発信のツールとしての「スポーツの活用」を推進します。

【重点】「ラグビーのまち府中」の推進★

市内には、本市を活動拠点としている東芝ブレイブルーパス東京及び東京サントリーサンゴリアスがあることから、東京2020大会などの国際大会開催のレガシーとしてブランド化した「ラグビーのまち府中」の取組を、市民・チーム・事業者及び市が更に連携していくことで、ラグビーの気運醸成、競技人口の拡大及び観光振興に取り組めます。



183 FUCHU FAN ZONE



(3) 市内トップチーム等との連携強化【新】

住民の連帯感の希薄化や、以前からの居住者と新たな居住者の交流の促進が課題となっている中、スポーツには、地域に根ざしたチームへの応援を通じて、地域コミュニティの連帯感を高めるという大きな効果が期待されています。

現在、FC東京、東芝ブレイブルーパス東京、東京サントリーサンゴリアス、アルパルク東京、府中アスレティックフットボールクラブの5つのトップチームが、市内を活動の拠点としています。

市民が一体となってトップチームを応援できる取組について検討するとともに、市民がトップチームをより身近に感じることができるよう、トップチームとの協働体制の更なる充実に向けて取り組みます。

○ トップスポーツの観戦・応援機会の充実

主に市内トップチームについて、日帰り可能な範囲を対象として練習会場の見学や、近県で開催される試合への応援ツアーなどの実施を検討します。また、市内トップチームに限らず、市にゆかりのある選手を応援することを目的として、オリンピック・パラリンピックなど、国外を含む遠方で開催される大会の開催時には、市内施設を利用したパブリックビューイングなどを実施します。

【重点】 市内トップチーム等との連携体制の構築★

市内トップチームと市民、市各課、地域などをつなぎ、相互のニーズをマッチさせるため、スポーツ振興課が中心となり、府中市トップチーム連絡会(仮称)の立ち上げに向けて取り組みます。トップチームは、競技の枠を超えて、他の競技のトップチームとの情報交換や連携を創出するとともに、市内トップチームが協働して、市や地域とともに交流や活動が推進される連携体制の強化を図ります。

○ 近隣市との連携

FC東京ホームタウン委員会や、東芝ブレイブルーパス東京及び東京サントリーサンゴリアスとの連携協定などを基として、トップチームが活動する近隣市と横断的に連携し、近隣市全体でトップチームを応援する体制の強化を図るほか、協働してイベントなどを開催します。



ボールふれあいフェスタ



FC 東京応援デー

(4) スポーツ情報の発信強化・関心喚起【新】



スポーツ情報を発信する時期や対象者などを的確に捉え、市として伝えたい情報にとどまらず、市民が知りたい情報やスポーツへの興味関心のきっかけとなるような情報を発信します。

○ ニーズを捉えた情報の発信と環境の検討

スポーツになじみが薄い人には、文化や教養などの情報と組み合わせた情報を提供することで、スポーツへの関心喚起を促します。また、既にスポーツと関わりのある人には、効果的な情報を発信することで、継続してスポーツに関われるよう促します。

さらに、近年ニーズが高まっているアーバンスポーツ^{※1}について、環境整備の検討を進めます。

○ 市にゆかりのある選手の情報発信

市にゆかりのある選手が、国際大会や全国的な大会などで優秀な成績を収めた際、市の情報発信ツールを通し選手を紹介することにより、選手への憧れや応援する気持ちの醸成を図り、スポーツに対する関心喚起につなげます。

○ 民間事業者との連携

民間のスポーツ事業者と連携し、市施設だけでは提供できない、民間の質の高いスポーツ指導その他のサービス等について積極的に情報発信するなど、市民がより総合的にスポーツに取り組める環境づくりに努めます。

郷土の森総合体育館、市民球場などのスポーツ施設において、引き続き、企業広告の導入及びネーミングライツ制度の導入の可能性について検討します。

【重点】東京2020大会等のレガシーの継承・発展★

東京2020大会などの開催を通じ、多くの市民がスポーツに興味を持ったことで、地域の活性化やボランティアの育成、青少年の健全育成など多岐にわたる分野の気運醸成につながりました。これらを実現するに当たって、事前キャンプの受入れや障害者スポーツの啓発など、これまで積み上げてきた様々な取組や記念モニュメントの設置管理などを、今後もレガシーとして引き継ぐとともに、これらのレガシーを市民が今後のスポーツ活動にいかし、継続的にスポーツに関われるように、環境の発展に努めます。

また、同大会を契機に促進されたホストタウン^{※2}の相手国であるオーストリアとオーストラリアとの交流を継続させ、国際交流の機会の拡充につなげます。

^{※1} エクストリームスポーツ（速さや高さ、危険さや華麗さなどの要素を持った、離れ業を売りとするスポーツ）の中で、都市で開催が可能なものをいいます。BMX、スケートボード、パーククルなどがあります。

^{※2} 東京2020大会の開催をきっかけに、地域の活性化を推進するため、事前キャンプの誘致などを通じて大会参加国との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として登録する国の制度



バスケットボール 「アルバルク東京」



◆選手への質問◆

- ・あなたにとってスポーツとは
→いつも近くにあり、楽しめるものです。小学生のときからバスケットボールを始めたのですが、選手としてだけでなく人間としても成長させてくれています。
- ・府中の魅力
→都心からも近く、緑が多くて落ち着いた町の印象です。多摩川沿いにはランニングコースやスポーツ施設があつて、体を動かす環境が整っていることも魅力の一つです！

◆チームの主要な沿革◆

- 1948年 トヨタ自動車株式会社実業団として創部
- 2018・2019年 Bリーグ連覇
- 2019年 FIBA ASIA Champions Cup 優勝



◆選手基本情報◆

- ・名前 おきかべ 泰暉 たいき ・ポジション シューティングガード
- ・出身 神奈川県 ・生年月日 1998年7月15日



チームのHPはこちら

第5章

計画の推進に当たって

第5章 計画の推進に当たって

1 各主体の役割

基本理念「スポーツタウン府中の発展」を実現するために、多様な主体と連携・協働し、計画を推進していきます。市として各主体に期待することを、次のとおり整理しています。

(1) 市民（家族）

ライフステージや、各個人の能力・年齢・目的・スポーツへの関心度に応じ、誰もが日常生活にスポーツを取り入れ、健康で元気な生活を送る事が期待されます。

(2) 特定非営利活動法人府中市体育協会

市と協働して市民へのスポーツの普及・振興のため、スポーツ団体の組織化、競技大会の開催、各競技連盟・協会との連絡調整などを行っています。市民のスポーツ活動の円滑な実施と、各競技のさらなる発展・振興に寄与し、市と各競技連盟・協会との懸け橋となることが期待されます。

(3) 府中市スポーツ推進委員会

「スポーツタウン府中の発展」を目指し、スポーツ教室、レクリエーション事業の企画運営、地域スポーツ活動の指導助言を行うとともに、市民やスポーツ団体・地域のニーズを把握し、スポーツ振興のコーディネーターとして市民と行政とのパイプ役になることが期待されます。

(4) トップチーム・アスリート

地域に根ざしたチームへの応援を通じて、市民に夢や感動を与え、地域コミュニティの連帯感を高めるという大きな効果が期待されています。また、市や地域と連携し、社会貢献活動などを通じて市民と交流し、まちの活性化やスポーツ人口の拡大に寄与することが期待されます。

(5) 総合型地域スポーツクラブ

多世代・多様な種目のスポーツを総合的に楽しめるスポーツ教室や、イベントの開催を通して市民のスポーツ活動の活発化が期待されます。また、学校や地域と連携しつつ、市民がスポーツを始めるきっかけの提供、継続的にスポーツに関われる場の提供に寄与することが期待されます。

(6) 社会教育（体育）関係団体・クラブ同好会

同じ目的・趣味を持った人同士がスポーツに親しみ、交流する身近な場として、「スポーツタウン府中の発展」において重要な役割を担うことが期待されます。

(7) 府中コミスポ協力者

個人のスポーツに関する知識や経験をいかし、スポーツイベントや教室において、市民のスポーツ活動の指導やサポートを行うとともに、活動を通じて自身のスポーツ指導能力の成長につなげる事が期待されます。

(8) 文化センター圏域コミュニティ協議会

文化センター圏域の住民で構成されたコミュニティ協議会が、市内各地域の特徴を踏まえて、スポーツイベントを企画・運営することで、地域の住民が気軽に参加できるスポーツ機会の充実が図られることが期待されます。

(9) 企業

市が提供するスポーツ行政サービスの他に、民間の専門的なノウハウをいかした多様なサービスを展開することで、日常的・継続的にスポーツに親しむことのできる場を拡充することが期待されます。

(10) 学校等

児童・生徒の体力・運動能力の向上を図るとともに、市や地域と協働し、スポーツボランティア活動などを通してスポーツ振興及び児童・生徒の資質・能力の向上につながる活動を推進することが期待されます。

また、学内のスポーツ施設などを地域に開放し、スポーツ活動をする場の提供を行うことにより、社会体育の振興に寄与する役割も期待されます。

(11) 福祉施設・団体

障害の有無にかかわらず、誰もが一緒にスポーツを楽しむことができる共生社会の実現のため、福祉の専門的な立場から市へ助言するとともに、協働によって、障害者スポーツなどの普及・イベントの開催へ協力することが期待されます。

(12) 市

市は、計画の推進主体の要として、各主体と連携・協働し、本計画の目指すべきまちの姿「スポーツタウン府中の発展」に向け、計画を遂行します。また、市各課との横断的な連携を強化し、それぞれの分野において相乗効果が得られる施策を推進します。

2 計画の推進と進行管理

スポーツに関わる各主体がそれぞれの役割を理解し、連携・協働することによって本計画を着実に推進します。

また、施策の進行管理に当たっては、第3章で示した数値目標や施策に関する調査などを基に、計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(Action)のサイクルにより、施策・事業の進捗状況や成果を把握するとともに、内容について継続的に点検し、必要に応じて改善を図ります。

なお、社会情勢の変化なども考慮し、必要に応じて計画の見直しを行います。



資料編

1 府中市スポーツ推進計画検討協議会委員名簿

(五十音順・敬称略)

No.	所 属	氏 名
1	府中市社会福祉協議会	朝日 マヤ
2	元東京農工大学名誉教授	植竹 照雄
3	サントリーサンゴリアス	植田 悠太
4	(特非) 府中市体育協会	小島 壽一郎
5	公募市民	佐藤 美枝子
6	府中市立小中学校校長会	佐藤 光宏
7	公募市民	田口 祐貴
8	明治大学教授	高峰 修
9	白糸台体育館運営協議会	本田 純子
10	府中市スポーツ推進委員会	吉松 久美子

- (1) 根拠 府中市附属機関の設置等に関する条例
府中市スポーツ推進計画検討協議会規則
- (2) 定員 10人以内
- (3) 任期 令和2年5月25日から令和4年5月24日まで(2年)

2 開催経過

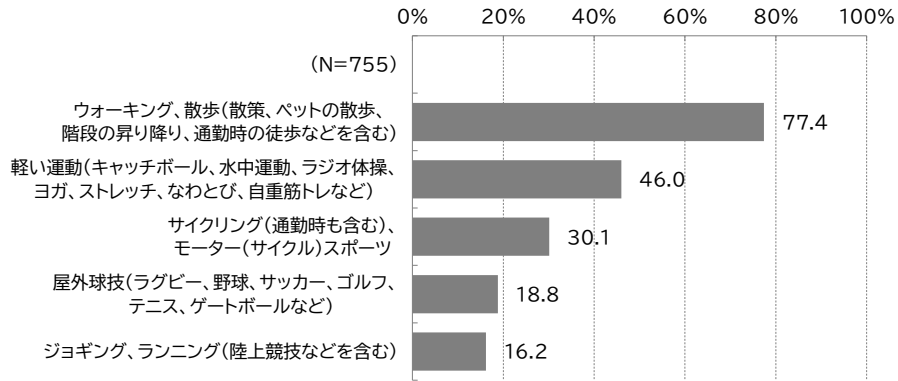
	令和3年度	
	時 期	協議事項
第1回	令和2年 6月25日(木)	・スポーツ推進計画の進め方・スケジュール(案)について ・現行計画の評価・アンケート項目の検討
第2回	令和2年 8月24日(月)	・アンケート項目および実施対象の検討・決定
第3回	令和3年 1月19日(火)	・計画骨子の策定に向けて①
第4回	令和3年 3月11日(木)	・計画骨子の策定に向けて②
第5回	令和3年 5月11日(火)	・答申(案)の検討① ・計画骨子作成案の確認
第6回	令和3年 6月22日(火)	・答申(案)の検討② ・計画素案の確認①
第7回	令和3年 8月17日(火)	・答申(案)の検討③ ・計画素案の確認②
第8回	令和3年 9月14日(火)	・答申案の提示・承認 ・パブリックコメントの説明 ・会長から教育長へ答申書の提出

3 アンケート調査

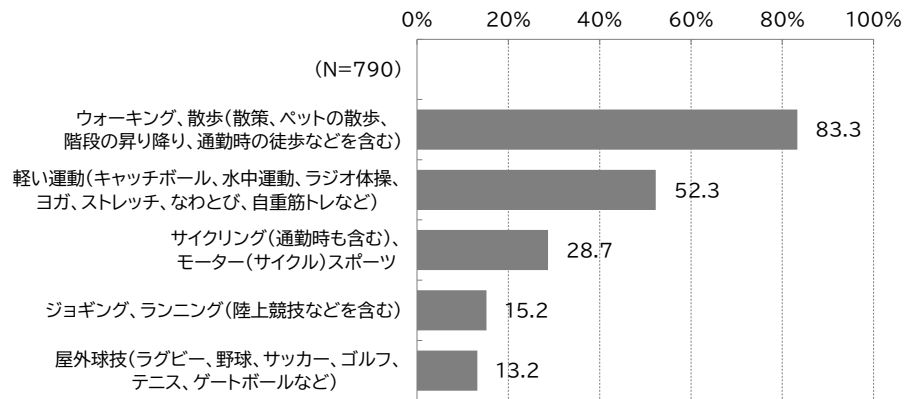
(1) 18歳以上の市民

実施した種目（上位5件）

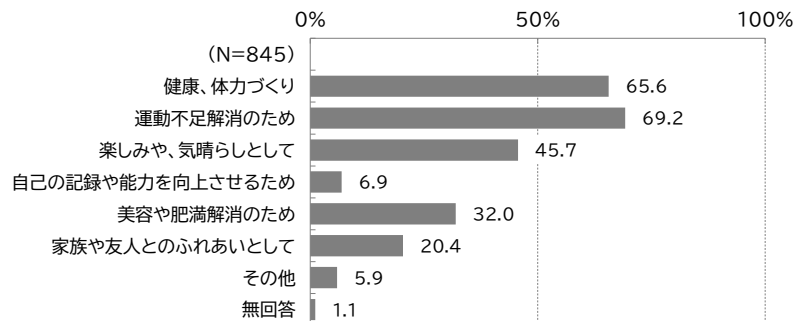
【令和2年3月31日まで】行ったもの



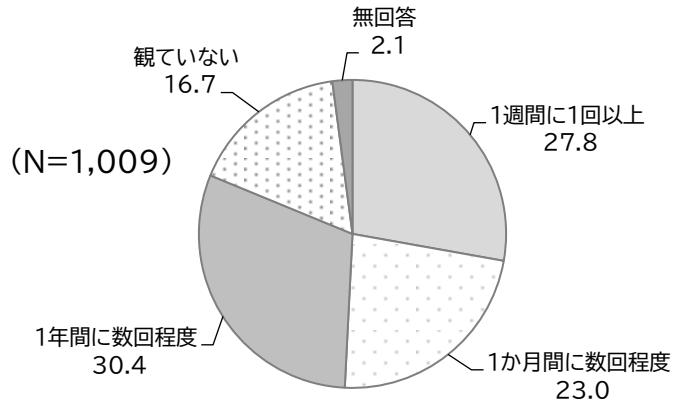
【令和2年4月1日以降】行ったもの



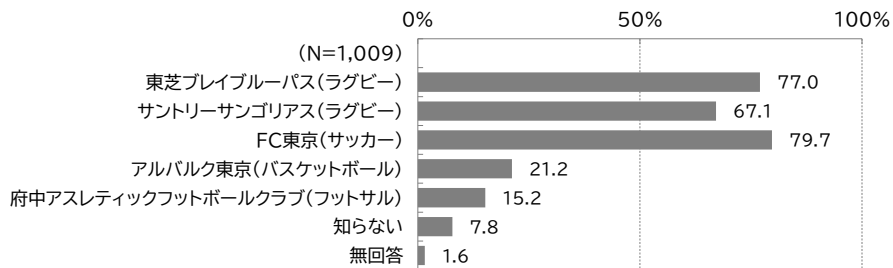
スポーツや運動をした理由



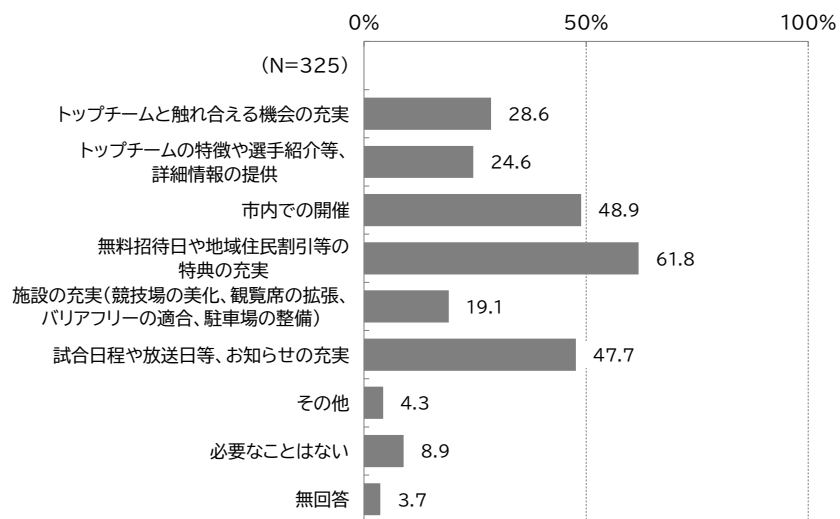
スポーツ観戦（TVでの観戦、練習観戦も含む）をした頻度



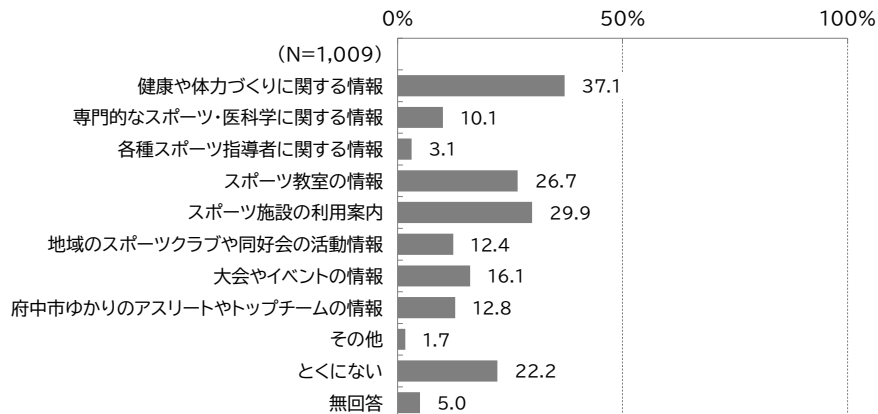
府中市を拠点に活動するトップチームの認知度



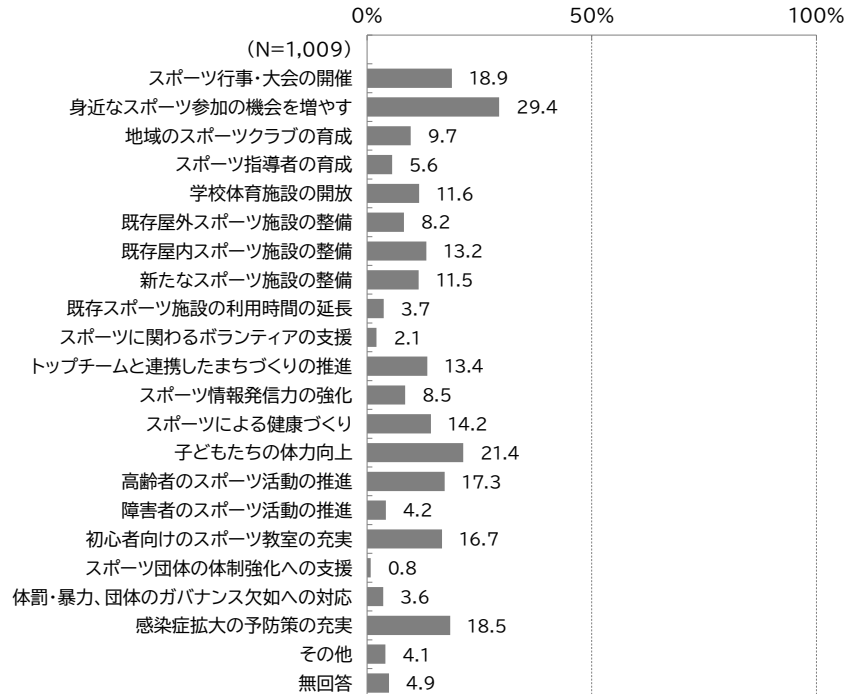
スポーツ観戦にあたって必要なこと



知りたいと思う府中市のスポーツに関する情報

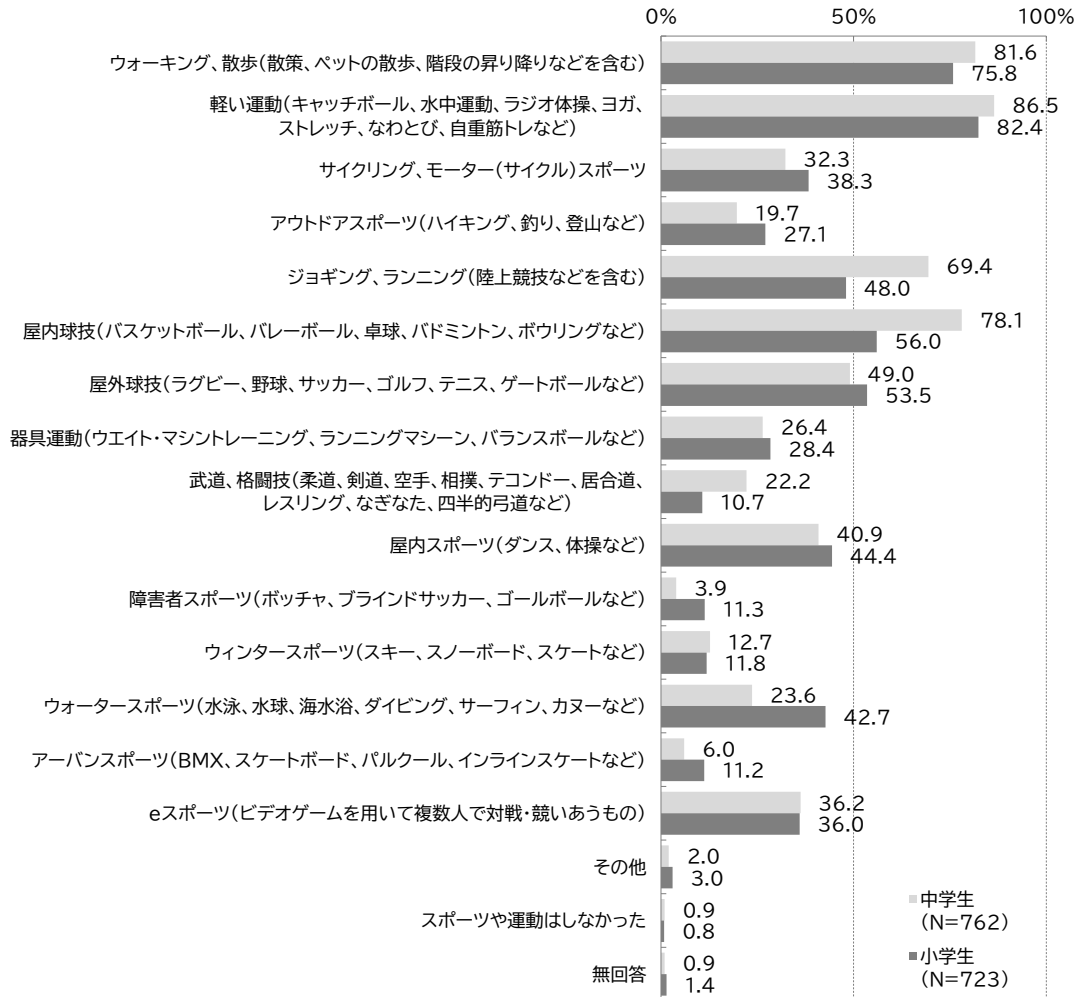


市が今後力をいれるべきだと思う施策

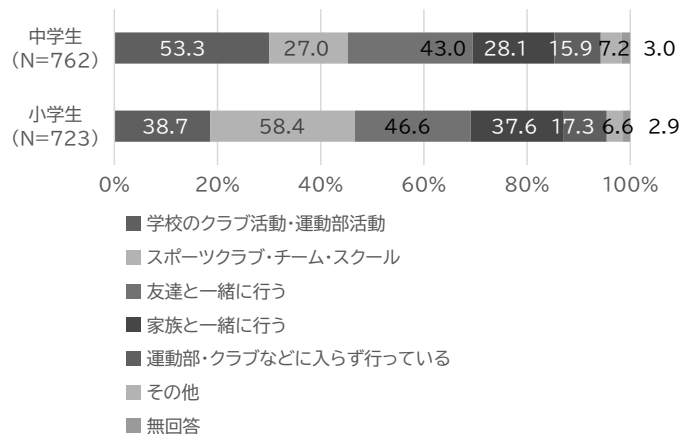


(2) 子ども向け調査

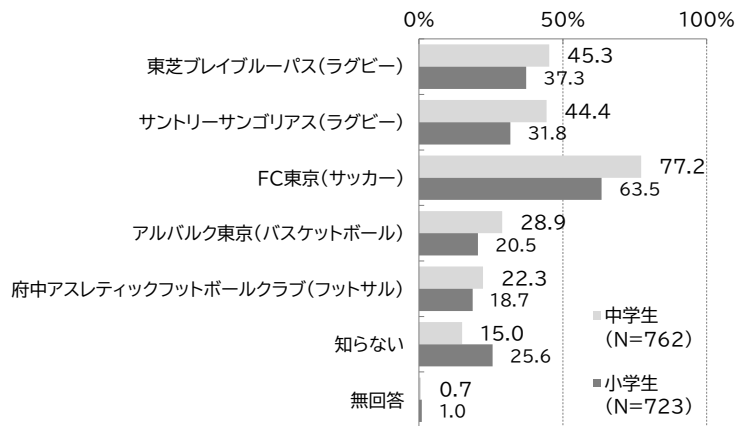
実施した種目



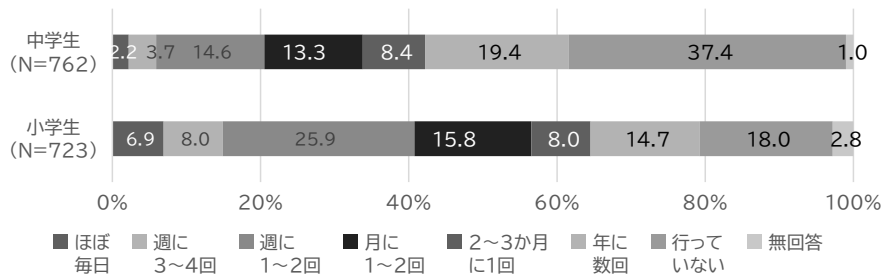
体育実技や学校行事以外で、運動やスポーツをどのように行っているか



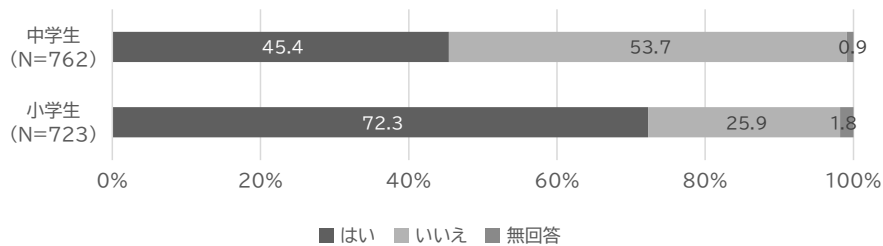
府中市を拠点に活動するトップチームの認知度



家族と一緒に運動やスポーツを行う頻度



家の人との実施を増やしたいか



主な修正点

修正箇所		修正後	修正前	修正理由
1	【13ページ】 注釈	_____	組織・団体の情報は、令和3年9月現在の情報	現状から変更がないため、削除したものです。
2	【15ページ】 「3 スポーツ施設」 のマップ及び注釈	マップ内の小柳・白糸台・武蔵台・新町プール、朝日体育館の施設名称に※印を追記 注釈「※の施設は、令和4年3月31日をもって廃止」	注釈「スポーツ施設の情報は、令和3年9月現在の情報」	該当施設について、令和4年3月31日をもって廃止するため、修正したものです。
3	【24ページ】 「4 数値目標」の2 段落目	<p>なお、計画全体の指標「スポーツ実施率」及び基本目標4の指標「トップチームの観戦状況」は、「第7次府中市総合計画前期基本計画（案）」の数値目標※¹と共通の指標です。</p> <p>また、基本目標1の指標「ボランティア参加状況」及び基本目標2の指標「障害者スポーツに関わった市民の割合」の現状値は、令和2年度に新たに調査し、初めて把握した数値であるほか、計画全体の指標「スポーツの実施率」及び基本目標4「トップチームの観戦状況」の現状値は、前年度の調査結果等と比較し、コロナ禍の影響を受けていないことが確認できたため、いずれも令和2年度の調査結果を現状（基準）値としています。</p>	<p>なお、指標「スポーツ実施率」及び「トップチームの観戦状況」は、「第7次府中市総合計画前期基本計画（案）」の数値目標※¹と共通の指標です。</p>	各指標の数値について補足するため、追加したものです。

4	【40ページ】 「【重点】 市内トップチーム等との連携体制の構築」の2行目	<u>府中市トップチーム連絡会（仮称）</u>	<u>スポーツコミッション</u>	スポーツコミッションという言葉が商標登録されていたため、修正したものです。
---	--	-------------------------	-------------------	---------------------------------------